

## 新しい町の施設整備

県も町も税金で運営する自治体です。県税は、今回の高校再編で高校が無くなる地域からも徴収しています。したがって、市川三郷町の町有施設建設への県費投入が、全県からの理解を得るには至難です。

県も町も法律に基づきお互いに不利益にならないよう協議を重ね、町の施設建設には、特別に延長された「合併特例債」(95%充当、70%地方交付税算入)を活用します。



新しい生涯学習センターなどの町有施設建設予定地。町が購入した土地は、元の地権者により取り壊され更地となっています。

## 責任ある執行

新設高校建設により、新設する町の施設(生涯学習センター、図書館、体育館、児童館、中地区公民館と代官所跡地整備、八乙女公民館)の整備には確実に責任ある執行が求められます。

市川代官所跡地整備と中地区公民館建設、八乙女公民館は、今般の9月町議会にて予算が成立しています。しかし、新しい生涯学習センターなど町の施設建設計画に3人の町議が反対しています。



平成29年10月 県政報告 第18号

## 地域振興と県政発展 遠藤ひろし

遠藤浩事務所  
〒409-3601 市川三郷町市川大門 1568-1  
電話 / FAX 055-272-0330

県会議員 遠藤浩の信条は、「地域の振興は、県政発展の基礎。」直面する課題解決に対して真摯に取り組んでいます。歴史に学び、先人を敬う政治は、新たな課題に対しても柔軟な対応をいたします。

山梨県議会基本条例 第20条2項の規定に基づき発行しています。

### ごあいさつ

市川三郷町にお住いの皆様におかれましては、ますますご盛栄のこととお慶び申し上げます。

さて、新設高校建設と新しい町の施設建設において情報を整理してご報告申し上げます。

地域の振興は県政発展の基礎。「地域振興と県政発展」が達成できますよう取り組んで参りますので、今後ともご指導ご鞭撻賜りますようお願い申し上げます。

## 新設高校建設は、県費40億円!

新設高校の建設費40億円余は県費です。県も町も法律に基づきお互いに不利益にならないよう協議を重ね、最小限の支出で効率的な工程を導き出しました。

学年定員280人の県内最大規模。従来の学校のイメージを払拭する斬新さと、峡南地域の歴史・伝統・文化を豊富に取り入れ県内初となる単位制・総合制高校として地域の教育環境整備に取り組みんで参ります。



現在の市川三郷町民体育館、図書館、町民会館などと市川高校

## 土地の無償提供

2000年の地方分権一括法以来、自治体間の関与のあり方が見直され、県と町は対等とされています。

町の土地が無償提供なら町の施設取り壊しを県で負担する。有償なら施設取り壊しは町でおこない、更地で県に提供する方法が一般的な考え方です。土地の地代と取り壊し費用が拮抗していたので、市川三郷町の財政負担が少ない土地の無償提供を選択しています。

## 新設高校誘致まで

県教育委員会が平成8年に策定した「山梨県高等学校整備新構想」は、峡南地域から普通科の存続が危ぶまれ、平成17年、県教委に対し普通科存続などの要望を提出しました。その後、進路の多様化、全県1学区、生徒数の減少、高校教育の環境変化など時代の変化により平成21年、「県立高等学校整備基本構想」を示し

要 望 書

市川 高校を育てる会  
 県立市川高等学校  
 県立市川高等学校PTA

平成17年3月、県教委に提出した要望書は、2万9千人余の署名が集まりました。その後、要望に沿う形で、全県一学区制の導入と普通科を基軸にした総合制高校の提案がなされました。

ました。これにより普通科を基軸にした高校づくりが示され、魅力と活力、地域との連携が重要とされました。今般の峡南地域再編整備においては、市川高校の特色を含む3校の特色を継承することを念頭に議論され、充実した内容に進化しました。

新設高校は、普通科（英語系列を含む）、商業科、工業科からなる県内初の単位制・総合制高校で、1学年の定員は280人の県内最大規模。今までの学校のイメージを払拭する斬新さと地域の歴史・伝統・文化を最大限に取り入れ、多様な進路希望に対応した教育カリキュラムを構成し、全国から注目される高校になるよう県を挙げて取り組んでいます。

## 市川三郷町の教育

市川三郷町の教育は、顔の見えるきめ細やかな教育提供体制を堅守してきました。現在では、小中学校の学力レベルは県下トップクラスと成果が表れています。今後は、ふるさとキャリア教育の推進により郷土の魅力やグローバル化、ITなど多様な人材育成と健康長寿を目指し生涯学習の推進に取り組んでいきます。



「新設高校を核とした町づくり」について県教育委員会に要望する市川三郷町峡南地域高校再編検討委員会（平成29年6月）

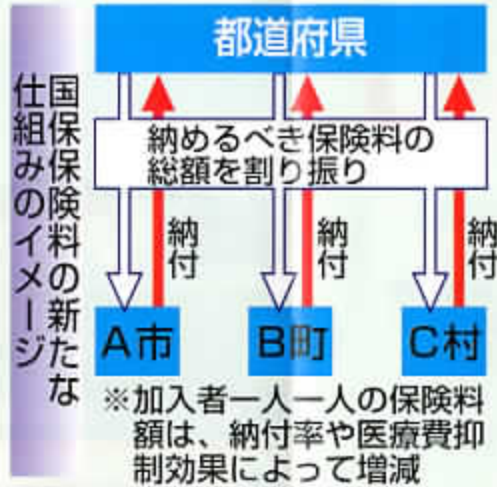
## 財政の健全化

市川三郷町合併直後、町の借金は、264億円でした。歳出削減や繰り上げ償還などの努力により211億円（H28年9月末）に改善しました。また、町の貯え（基金）も20億円を43億円（H29年3月末）と倍増しています。

### 町の財政は健全

貯金 20億円 ⇒ 43億円  
 借金 264億円 ⇒ 211億円  
 合併時 ⇒ 現在

## 国保会計は 県が責任主体へ



超高齢化社会2025年問題を踏まえ社会保障の在り方も過渡期と言えます。市川三郷町は、高齢者など社会弱者の個人負担が軽減されるよう議会や審議会のご指導の下運営しています。また、国保会計は、明年度から県が責任主体になるなど、国や県も抜本改正に取り組んでいます。

## 病院の建て替え

昨年度、県により策定された「地域医療構想」と連動した峡南医療センターの経営健全化のための「改革プラン」により全職員が一丸となり経営改善に取り組んでいます。市川三郷病院の建て替えについても計画の中に盛り込まれています。その実現に向け取り組んでいきます。



峡南医療センターの経営健全化計画と市川三郷病院建て替え計画は、ホームページ上に掲載されています。